

結婚生活がもたらす「責任と変化」の先にある充足感 ～都会のふるさと・清瀬市で描く家族のカタチ～



2児の母である清瀬市在住の30代女性に、結婚生活や清瀬市での子育てのリアルをうかがいました。

「都会のふるさと」で、自然とともに育む日々

東京都のなかでも自然が残る清瀬市で、結婚生活10年を迎えた30代のHさん。小学生の子どもたち(小3女子・小1男子)の成長を振り返り、「自然とともに成長していく姿に癒される」と言う。

市域の約2割を農地が占める清瀬市は、じつは都内でも有数の農業が盛んな地域だ。至るところに野菜の直売所があって、スーパーに行かなくても新鮮で美味しい野菜が手に入る。夏にはトウモロコシやトマト、冬にはかぶなど、食卓で季節を感じられるため、「子どもが小さいころから野菜が身近にある環境は本当に良かった」と言う。

景色を見渡せば緑があり、川遊びのハードルも低い。Hさんは清瀬市での暮らしを「都会にあるふるさと」と表現し、微笑む。

孤独と自由の表裏一体から、「待ってくれる人」がいる安心感へ

年上のご主人との出会いは、以前の職場で取引先として知り合ったことがきっかけだった。独身時代は、好きなときに好きなことができ、誰にも我慢せずに生活できたという。好きなだけ残業もできたうえに「自分以外のことを考えなくてよかった」とはいえ、それは「孤独と自由が表裏一体だった」とHさんは振り返る。

結婚をして一番の変化は「待ってくれる人がいる」こと。「一人じゃないという安心感」に包まれながら、「のんびりほのぼのとした時間を過ごす」ことができるようになり、「孤独感がなくなったのが大きな変化ですね」と語る。

想像できなかった「自由のなさ」のなかで見つけた、日常の輝き

お子さんが生まれてからの生活の変化について尋ねると、等身大のリアルな答えが返ってきた。「子どもを授かって良かった」と思う一方で、「自分の時間は、聞いていた以上に減りました」とHさんは言う。

独身時代に想像していた以上の「自由のなさ」、そのなかに「なんでもない日常の一瞬一瞬が輝いている」と、にこやかにほほ笑む姿が印象的だ。そして子育ては、Hさん自身の精神的な成長にも繋がっていた。

子どもを通じて見知らぬ人から話しかけてもらうことが増え、多くのママ友との交流も生まれた。色々な方と関わることで「人生の幅が広がる」実感があり、「自分自身も人としてたくましくなった」と言うHさんは、ただの何でもない1週間であっても、家族と一緒に生活していると感じられる充足感についても熱く語ってくれた。

「ちょっとした息抜き」を支えてくれる、進化する清瀬市の子育て支援

現在、清瀬市で働きながら子育てをするHさんにとって、市の手厚い子育て支援制度は心強い味方だ。特に、産前から幼稚園・保育園に入る前までのケアの充実ぶりを実感しているという。

たとえば、「つどいの広場事業」もこの一つだ。「つどいの広場」は、清瀬市が赤ちゃんから小学校入学前の子どもたちとその保護者向けに提供する交流・遊びの場で、ここでは保護者がリフレッシュできるよう「5分のコーヒータイム」が設けられており、この時間がすごく息抜きになるようだ。他にも、ベビーマッサージ講座の受講や、子育てクーポンの活用など、行政のサポートをフル活用。クーポンは近年電子化され、使える幅が広がりさらに利便性が増したという。

また預かり保育の柔軟さも魅力だ。他の自治体だと1週間前までの予約が必要なが多いと聞くと、Hさんは「清瀬市は前日まで予約ができるので本当に助かりました」というリアルな感想をいただいた。最後に、これから結婚を考えている方へ向けたメッセージをお届けする。

「清瀬市の子育て支援制度はとても実用的」であり、「利用できる環境がこれだけ整備されている」ことを、「これから結婚される方や子育てで孤独を抱えている方にもっと知ってほしいですね」と語ってくれた。

自由気ままな独身時代を経て、家族と過ごす温かい時間へ。清瀬市という「都会のふるさと」には、「子どもたちを優しく包み込む自然」と日々の充足感を育んでくれる環境が整っているようだ。